

タイトル「**2021年度スポーツ科学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**スポーツ科学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	SSCS1309		
科目名	スポーツの法と倫理		
担当教員	杉山 翔一,堀口 雅則		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 1		
講義室	オンライン	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	総合教育		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード：学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP2-A〔日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢〕地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■CRコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 A1 グローバル感覚（10%） E1 学識・専門技能（70%） I1 理解・分析と読解（20%）		
教員の実務経験	サッカーや野球、ラグビーフットボールといったプロスポーツ選手、競技団体に関わる法務（第三者委員会委員など）、スポーツビジネス関連会社やスポーツ関連NPOに関わる法務、選手会関する法務に携わる講師が担当します。 公益財団法人日本スポーツ仲裁機構の仲裁調停専門員として、競技者とスポーツ団体との間の紛争解決、ドーピング紛争解決に携わっています。 公益財団法人日本スポーツ仲裁機構が行うアンチ・ドーピング規則や仲裁機関の判断例の研究、コンプライアンスに関する研究に携わっています。 （第1回、第2回、第3回、第4回、第6回、第7回、第8回、第9回、第10回、第11回、第12回、第13回、第14回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット：能力開発の目標ステージとの対応 2 進行期～3 発展期		
科目概要・キーワード	日本国内のみならず諸外国の事例も含めたスポーツ事象を取り巻く法とその体系の理解を通じ、スポーツの権利について考えるとともに、様々な倫理的問題についても検討していきます。具体的にはスポーツにおける紛争解決や事故と法的責任等の現実的諸側面と実定法解釈の現状を理解します。さらに法に基づく国や地方自治体による体育・スポーツ分野の行政機構と諸施策の現状や、実際のスポーツ現場に即した今後の課題を、倫理的問題とも併せて、資料・視聴覚教材等を用いて学びます。なお、授業の一部を補完するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニングを取り入れる場合があります。 ■キーワード：インテグリティ、コンプライアンス、ガバナンス、スポーツ仲裁		
授業の趣旨	■副題 スポーツ選手や指導者、スポーツ団体の役職員に求められるコンプライアンスと、スポーツのインテグリティの保護 ■授業の目的 国内外のスポーツをめぐる紛争や不祥事の原因や予防するために身につけておくべき基礎知識を習得し、スポーツにおける様々な法的・倫理的問題を分析し理解する能力を身につけることを目的としています。 ■授業のポイント 担当教員の実務経験を踏まえて、国内外のスポーツ界で実際に起きている具体的な紛争や不祥事を紹介し、何が問題だったのかを学生に考えてもらいます。日常的に法律を学んでいない学生が、競技活動やスポーツ界の実務に携わるうえで必要な「法」について説明をします。		
総合到達目標	・スポーツ団体のガバナンスの重要性を理解し、説明できるようになる。 ・スポーツ・インテグリティという用語の意味を説明できるようになる。 ・スポーツ・インテグリティを脅かす事象を具体的に説明できるようになる。 ・コンプライアンスという用語の意味を具体的に説明できるようになる。 ・スポーツ仲裁の制度を理解し、具体的に説明できるようになる。 ・代表選考紛争や不利益処分紛争といったスポーツトラブルの概要を具体的に説明できるようになる。 ・アンチ・ドーピングに関し、競技者として気を付けるべき行動を説明できるようになる。 ・スポーツ団体定めるルールが違法とされる事例について、具体的に説明できるようになる。		
成績評価方法	■リアクション・ペーパー2回（30%） （評価の観点）取り上げた問題に関し、授業の内容を踏まえて、問題に対する理解や自分の意見を示すことができているか。 （フィードバック方法）授業時間中に解説を行います。 ■レポート1回（70%） （評価の観点）設定されたテーマについて、授業の内容を踏まえて、専門的知識の理解を示し、自分の言葉で説明できているか。 （フィードバック方法）授業時間中に解説を行います。		

履修条件	履修条件は特にありませんので、どなたでも歓迎します。	
履修上の注意点	事前、事後に講師が指定する資料を読んでくることが求められます。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ イントロダクション ②授業概要 冒頭で、本講義の進め方や、成績評価の方法について話をする。残りの時間で、教員の弁護士としての実務経験を踏まえて、なぜ、スポーツと「法」とが関係があるのかについて説明する。 学生は、スポーツと法の関係について説明することができるようになる。 ③予習（120分） シラバスを確認しておく。 ④復習（120分） 講義中に紹介された参考文献を参照する。
	2	①授業テーマ スポーツ界で起きている最近の問題、関心事について ②授業概要 教員の国内外での弁護士業務を踏まえて、近年、日本や世界で問題となっているスポーツ界の問題を紹介する。 学生は、スポーツで起きている多様な問題事例の知識を習得する。 ③予習（120分） Live Campusを通じて指定された教科書の該当ページを確認する。 ④復習（120分） 講義中に紹介された参考文献を参照する。
	3	①授業テーマ スポーツ団体をめぐるトラブルとグッド・ガバナンス ②授業概要 教員のスポーツ団体に関する弁護士業務を踏まえて、スポーツ団体をめぐるトラブルの概要と、その原因について説明する。 学生は、スポーツ団体においてトラブルが起こる原因を説明できるようになる。 ③予習（120分） Live Campusを通じて指定された教科書の該当ページを確認する。 ④復習（120分） 講義中に紹介された参考文献、参考図書を参照する。
	4	①授業テーマ スポーツと人権1 （暴力・ハラスメント） ②授業概要 教員の弁護士としての実務経験を踏まえて、日本や国際的に起きている、暴力やハラスメントの事例とその原因を説明する。 学生は、指導者やスポーツ団体の役職員による体罰や暴力、ハラスメントの問題について、自分の意見を述べられるようになる。 ③予習（120分） Live Campusを通じて指定された教科書の該当ページを確認する。 ④復習（120分） 講義中に紹介された参考文献、参考図書を参照する。
	5	①授業テーマ スポーツと人権2 （差別の禁止） ②授業概要 人種やジェンダーを理由とする差別の問題を説明する。 学生は、スポーツにおける性差別や人種差別の問題について自分の意見を述べられるようになる。 授業の後半に、リアクションペーパーを実施する。解説は次回の授業で行う。 ③予習（150分） 第1回から第4回について復習する。Live Campusを通じて指定された教科書の該当ページを確認する。 ④復習（90分） 講義中に紹介された参考文献、参考図書を参照する。
	6	①授業テーマ スポーツ・インテグリティ1 アンチ・ドーピング ②授業概要 教員の日本スポーツ仲裁機構の仲裁調停専門員としての実務経験を踏まえて、アンチ・ドーピング制度について説明する。 学生は、アンチ・ドーピング活動について正しい知識を得ると共に、問題事例に関する意見を述べるができるようになる。 ③予習（120分） Live Campusを通じて指定された教科書の該当ページを確認する。 ④復習（120分） 講義中に紹介された参考文献、参考図書を参照する。
	7	①授業テーマ スポーツ・インテグリティ2 八百長・賭博その他の不祥事 ②授業概要 教員の弁護士としての実務経験を踏まえて、スポーツ選手や役職員が行う違法賭博の問題、八百長その他の不祥事の問題について説明する。 学生は、日本における賭博の法的位置づけや八百長その他の不祥事の問題点を説明できるようになる。 ③予習（120分） Live Campusを通じて指定された教科書の該当ページを確認する。 ④復習（120分） 講義中に紹介された参考文献、参考図書を参照する。
	8	①授業テーマ スポーツトラブル1 トラブルの概要と解決機関 ②授業概要 教員の日本スポーツ仲裁機構の仲裁調停専門員としての実務経験を踏まえて、スポーツに関連するトラブルの例と、その解決を行う機関について説明する。 学生は、スポーツに関連して起こるトラブルや、その解決の上で頼ることができる機関について説明できるようになる。 ③予習（120分） Live Campusを通じて指定された教科書の該当ページを確認する。 ④復習（120分） 講義中に紹介された参考文献、参考図書を参照する。
	9	①授業テーマ スポーツトラブル2 スポーツ制裁の問題 ②授業概要 教員の弁護士としての実務経験を踏まえて、スポーツの競技やその運営に関するルールの違反を理由に、スポーツ制裁が課された事例を紹介し、スポーツ制裁の背景にある法的問題を説明する。 学生は、スポーツ制裁を課す上での考え方を説明できるようになる。 ③予習（120分） Live Campusを通じて指定された教科書の該当ページを確認する。 ④復習（120分） 講義中に紹介された参考文献、参考図書を参照する。
	10	①授業テーマ スポーツと安全1 Health and Safety ②授業概要 教員の弁護士業務を踏まえて、脳震とう事故や心臓震とう事故その他のスポーツ事故の問題を説明する。 学生は、Health and Safetyという概念について説明できるようになる。 授業の後半中に、リアクションペーパーを実施する。解説は次回の授業で行う。 ③予習（150分） 第5回から第9回について復習する。Live Campusを通じて指定された教科書の該当ページを確認する。 ④復習（90分） 講義中に紹介された参考文献、参考図書を参照する。
	11	①授業テーマ スポーツと安全2 スポーツ事故の法的責任 ②授業概要 教員の弁護士としての業務経験を踏まえて、スポーツ事故が起きた際の法的責任について説明する。また、日本のスポーツ保険の状況と課題についても説明する。 学生は、スポーツ事故が起きた場合の法的責任やスポーツ保険の問題について説明できるようになる。 ③予習（120分） Live Campusを通じて指定された教科書の該当ページを確認する。 ④復習（120分） 講義中に紹介された参考文献、参考図書を参照する。

	12 ①授業テーマ 人権ムーブメントとアスリート・アクティビズム ②授業概要 スポーツと人権ムーブメントやアスリート・アクティビズムをめぐる問題について説明する。 学生は、スポーツと人権ムーブメントの概要やアスリート・アクティビズムの概要を説明できるようになる。 ③予習（120分） Live Campusを通じて指定された教科書の該当ページを確認する。 ④復習（120分） 講義中に紹介された参考文献、参考図書を参照する。
	13 ①授業テーマ 選手契約をめぐる問題 ②授業概要 教員の弁護士業務を踏まえて、日本のプロスポーツリーグや競技団体が定めている選手契約、移籍ルール、肖像権の制度の概要と、問題点について説明する。 学生は、スポーツ団体が定めている選手契約、移籍ルール、肖像権制度の概要と、その問題点について説明できるようになる。 ③予習（120分） Live Campusを通じて指定された教科書の該当ページを確認する。 ④復習（120分） 講義中に紹介された参考文献、参考図書を参照する。
	14 ①授業テーマ スポーツ選手をサポートする選手会や代理人等の活動 ②授業概要 教員の弁護士業務を踏まえて、スポーツ選手をサポートする選手会組織の活動や、代理人の活動・問題点について説明する。 学生は、選手会組織の概要や代理人の活動について説明できるようになる。 ③予習（120分） Live Campusを通じて指定された教科書の該当ページを確認する。 ④復習（120分） 講義中に紹介された参考文献、参考図書を参照する。
	15 ①授業テーマ 講義のまとめとレポートの解説 ②授業概要 講義のまとめを実施した後、レポートの解説を行う。 ③予習（150分） 第1回から第14回について復習する。 ④復習（90分） 自身の提出したレポートを見直す。
関連科目	スポーツ社会学演習[SSCS3608]、スポーツ運動学演習[SSCS3609]、スポーツ制度・行政[SSCS2335]
教科書	実践！グッドコーチング 暴力・パワハラのないスポーツ指導を目指して P H P 研究所
参考書・参考URL	標準テキスト「スポーツ法学」エイデル研究所、2020年4月、ISBN-10: 9784871686501 ※ 授業で触れた内容を体系的に学びたい人は、参照してください。 また、Live Campusや各授業を通じて、適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	メール又は授業前後の時間で学生からの質問に対応します。
研究比率	

